

第9章 調査間の比較結果

1 人生100年時代に向けた考えや取組について

【一般高齢者調査：問6、要介護認定者調査：問24】

人生100年時代を迎えるにあたって、今後、市が重点的に取り組んだ方がよいと考えるものはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

【ネットモニター調査：問23】

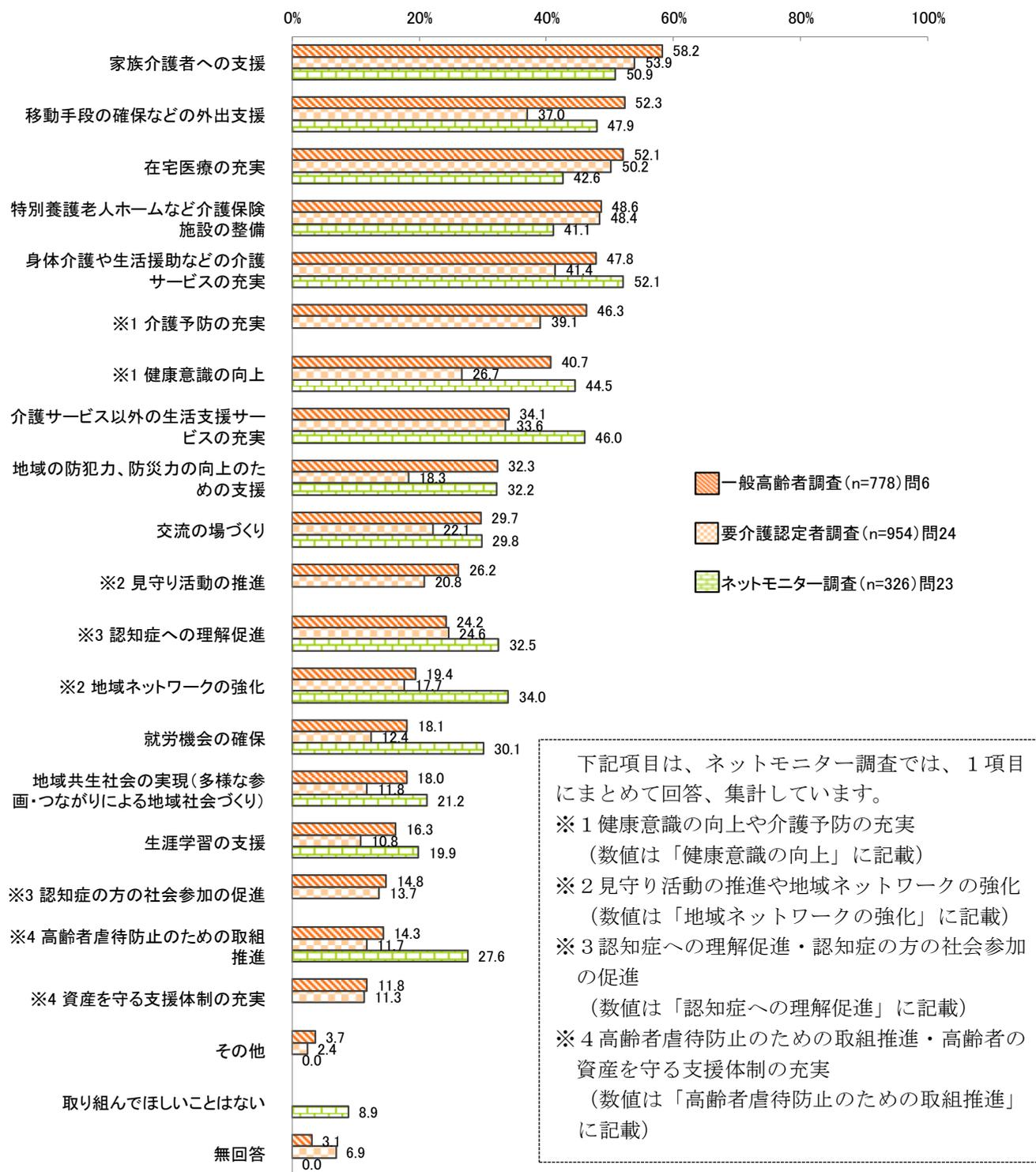
人生100年時代を迎えるにあたって、自身が高齢者となった際に、今後、市が重点的に取り組んでほしいと考えるものはどのようなことですか。(回答はいくつでも)

人生100年時代を迎えるにあたって、今後、市が重点的に取り組むべきこととしては、一般高齢者、要介護認定者ともに「家族介護者への支援」が最も多くなっています。また、中高年世代(ネットモニター調査)(以下、「中高年世代」と言う)では、「身体介護や生活援助などの介護サービスの充実」が最も多くなっています。

次いで、一般高齢者では「移動手段の確保などの外出支援」「在宅医療の充実」、要介護認定者では「在宅医療の充実」、中高年世代では「家族介護者への支援」があげられています。

このように、高齢者層と中高年世代とで共通して、在宅医療・在宅介護体制の充実や家族介護者の支援など、在宅で暮らし続けるための必要な支援に重点的に取り組むべきとする意向が多くなっています。

図表 9.1 人生 100 年時代を迎えるにあたって、今後、市が重点的に取り組むべきこと



※ネットモニター調査では、「地域の防犯力、防災力の向上のための支援」を「地域の防犯・防災」で聴取

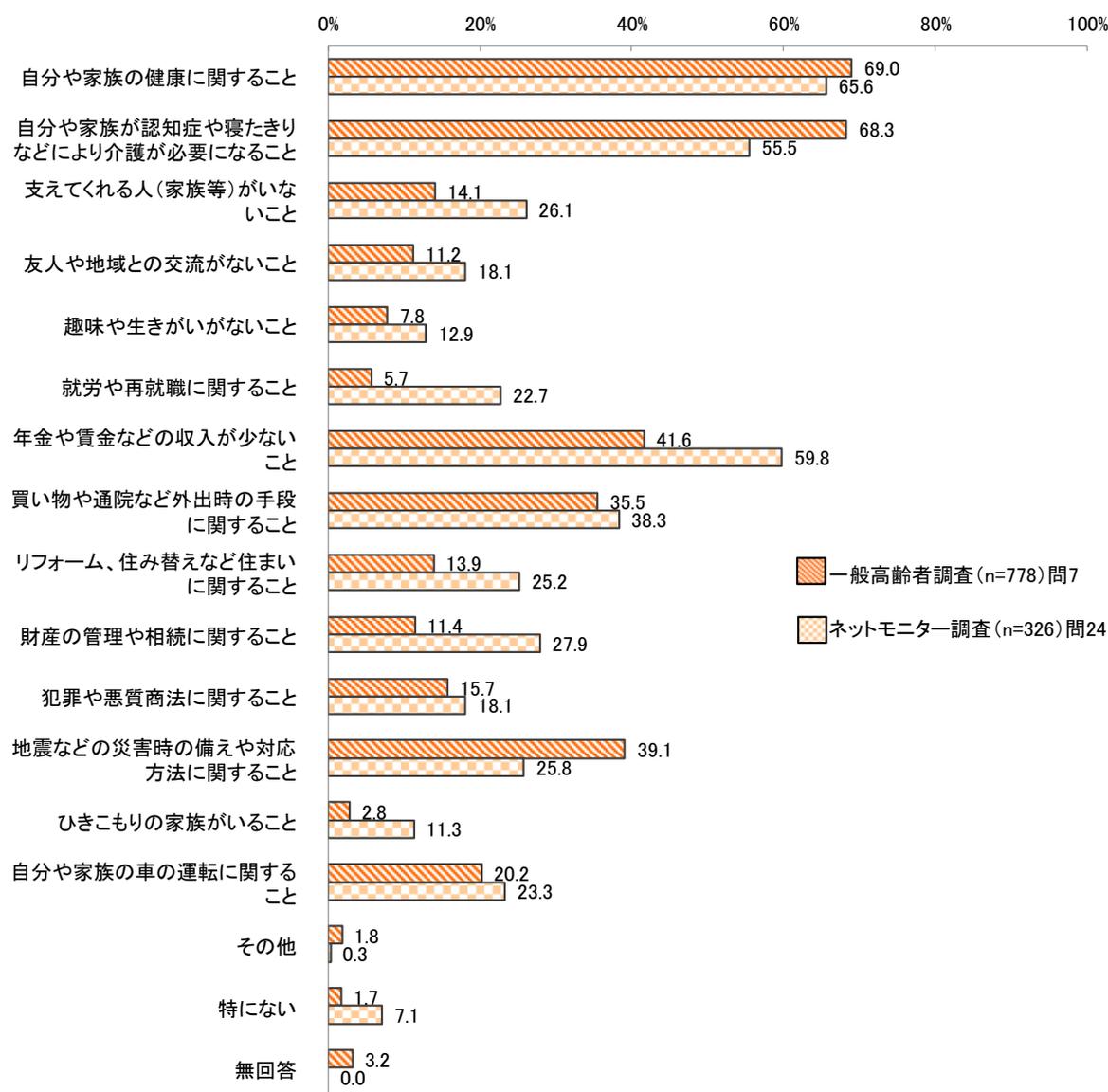
※「取り組んでほしいことはない」は、一般高齢者調査、要介護認定者調査では、調査なしのため 0.0 非表示

【一般高齢者調査：問7】
 人生100年時代を迎えるにあたって、どのようなことに不安を感じますか。
 (あてはまるものすべてに○)
 【ネットモニター調査：問24】
 あなたは、人生100年時代を迎えるにあたって、どのようなことに不安を感じますか。
 (回答はいくつでも)

人生100年時代を迎えるにあたって不安を感じることは、一般高齢者、中高年世代ともに、「自分や家族の健康に関すること」が最も多くなっています。

次いで、一般高齢者では、「自分や家族が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」と介護への不安が、中高年世代では、「年金や賃金などの収入が少ないこと」と経済的な不安が、多くみられます。

図表 9.2 人生100年時代を迎えるにあたって不安に感じる事



※ネットモニター調査では、「ひきこもりの家族がいること」を「ひきこもりについて」で聴取

【一般高齢者調査：問 14-1】

あなたは何歳まで仕事をしたい（または続けたい）ですか。現在の年齢を基準にお答えください。
（ひとつだけ○）

【ネットモニター調査：問 27】

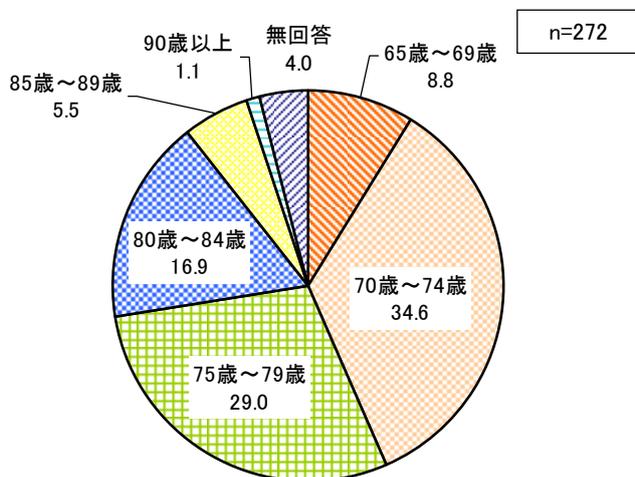
あなたは何歳まで働きたいと思いますか。（回答は1つ）

一般高齢者では、23.5%が80歳以降も働きたいと回答し、中高年世代では、26.7%が80歳を超えて「働ける限りずっと」と回答しています。

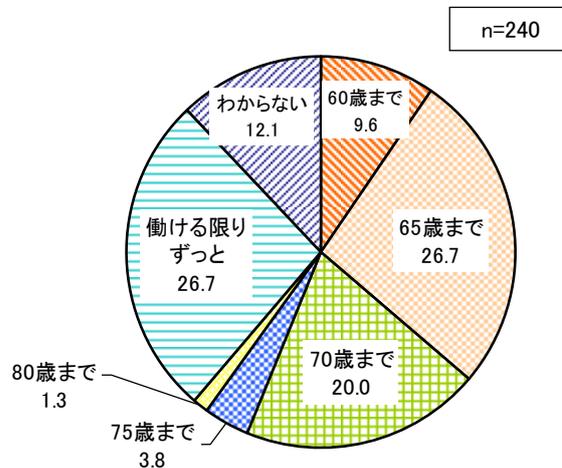
日本の高齢者の体力・運動能力が伸びているといわれる中で、健康と働くことが一体となったライフスタイルを維持する高齢者が増えていくことが予想されます。こうした市民層が、地域社会との接点を深めながら担い手として関わられる社会づくりが求められます。

図表 9.3 就労希望年齢

（一般高齢者調査）



（ネットモニター調査）

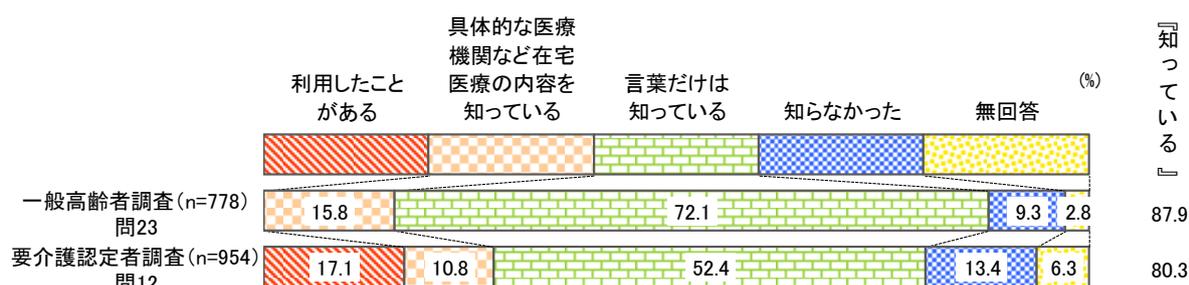


2 医療について

【一般高齢者調査：問23、要介護認定者調査：問12】
あなたは在宅医療について知っていますか。(ひとつだけ○)

在宅医療の認知状況については、「具体的な医療機関など在宅医療の内容を知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせると、一般高齢者では87.9%、要介護認定者では63.2%となっています。なお、要介護認定者では、17.1%が利用経験があることから、利用経験を合わせた認知度は80.3%となっており、要介護認定者では在宅医療をより深く認識しているといえます。

図表 9.4 在宅医療の認知状況



※「利用したことがある」は、一般高齢者調査では、調査なしのため 0.0 非表示

【一般高齢者調査：問24、要介護認定者調査：問13】
あなたは脳卒中の後遺症やがんなどで、長期の治療・療養が必要になった場合、在宅医療を希望しますか。(ひとつだけ○)

長期の治療・療養が必要になった場合の在宅医療の希望については、一般高齢者が約6割(59.9%)、要介護認定者が約5割(52.5%)となっています。

また、すでに要介護認定者では8.5%が在宅医療を利用していることから、今後も利用継続することを想定すると、要介護認定者では61.0%の在宅医療の希望があると捉えることができます(一般高齢者においては、0.4%が現在利用となっています)。

今後の利用希望については、一般高齢者、要介護認定者ともに多いといえます。

図表 9.5 在宅医療の希望



【一般高齢者調査：問25】

自分が望む医療やケアについて御家族や親族の方などと話し合いをしていますか。

(ひとつだけ○)

【ネットモニター調査：問13】

あなたは、家族等が望む医療やケアについて家族や親族の方などと話し合いをしていますか。

(回答は1つ)

医療やケアについて家族等と話し合う機会は、一般高齢者では、自身が望む医療やケアを話している割合が32.0%となっています。

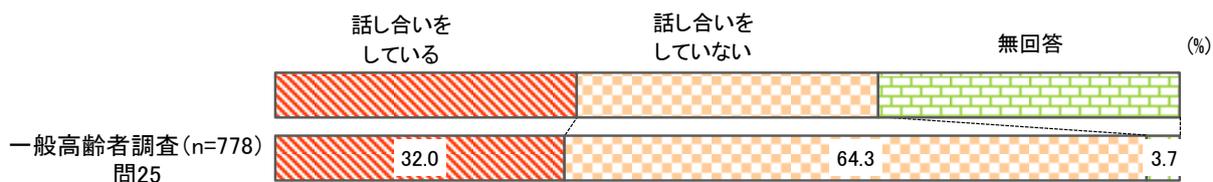
中高年世代では、家族等が望む医療やケアについて話している割合が25.4%となっています。

人生100年時代を迎えるにあたって、今後、市が重点的に取り組むべきことにおいても「在宅医療の充実」が上位にあげられており、今後は自身や家族等の意向を含め、家族、親族間での適切な知識、情報の共有化の機会が必要と思われます。

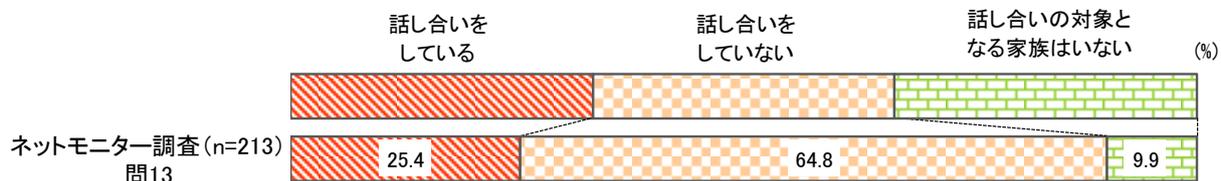
なお、ネットモニター調査では対象者年齢が高齢者に比べて低い(40歳~64歳)ため、約1割(9.9%)は「話し合いの対象となる家族はいない」状況です。

図表 9.6 医療やケアについて家族等と話し合う機会

(一般高齢者調査)



(ネットモニター調査)

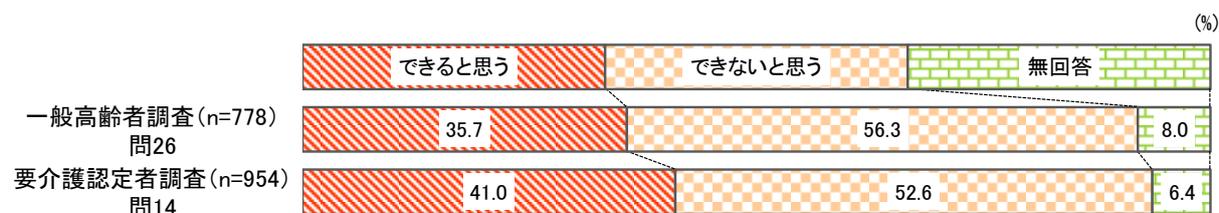


【一般高齢者調査：問26、要介護認定者調査：問14】
 あなたは、在宅医療を利用して在宅生活を続けていくことができますか。(ひとつだけ○)

今後、在宅医療を利用した在宅生活の継続が可能かについては、一般高齢者、要介護認定者ともに約4割が「できると思う」としています。

このように、在宅医療と生活継続の関係については、一般高齢者、要介護認定者ともにほぼ同じ見通しを有しているといえます。

図表 9.7 在宅医療を利用した在宅生活の継続可能性

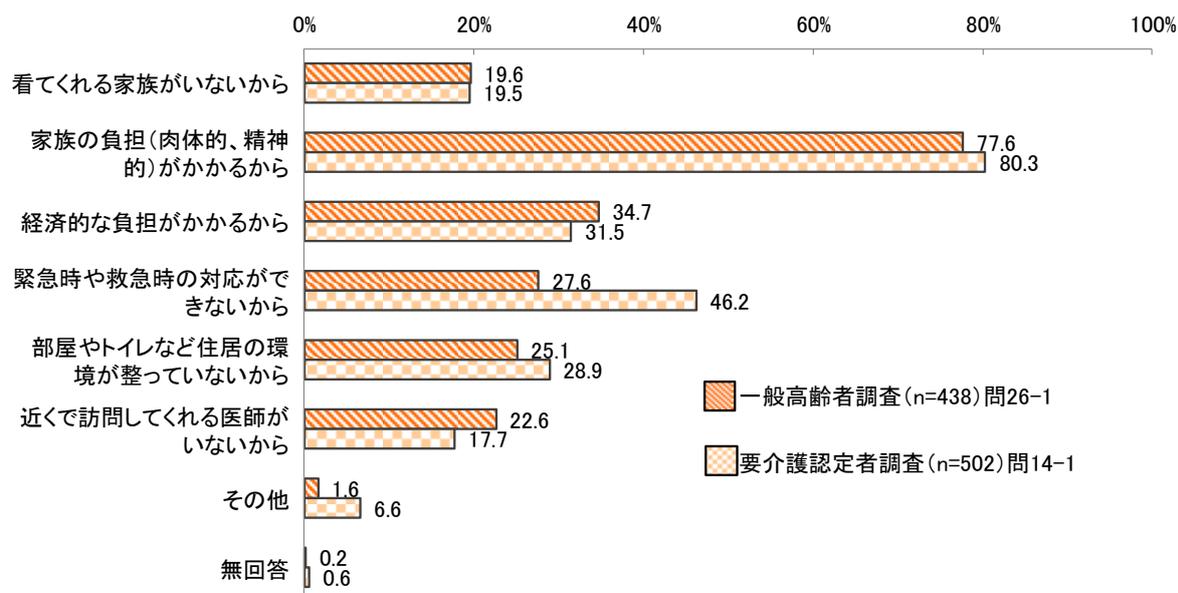


【一般高齢者調査：問26-1、要介護認定者調査：問14-1】
 在宅医療を利用して在宅生活を続けていくことができないと思う理由はどのようなことですか。
 (あてはまるものすべてに○)

在宅医療を利用した在宅生活が継続できないと思う理由については、一般高齢者、要介護認定者ともに「家族の負担（肉体的、精神的）がかかるから」が約8割と最も多くなっています。このほか、要介護認定者では、「緊急時や救急時の対応ができないから」が4割を超えています。

介護する家族への負担や、緊急時、救急時の対応の困難さが在宅生活継続の障壁となっていることがわかります。

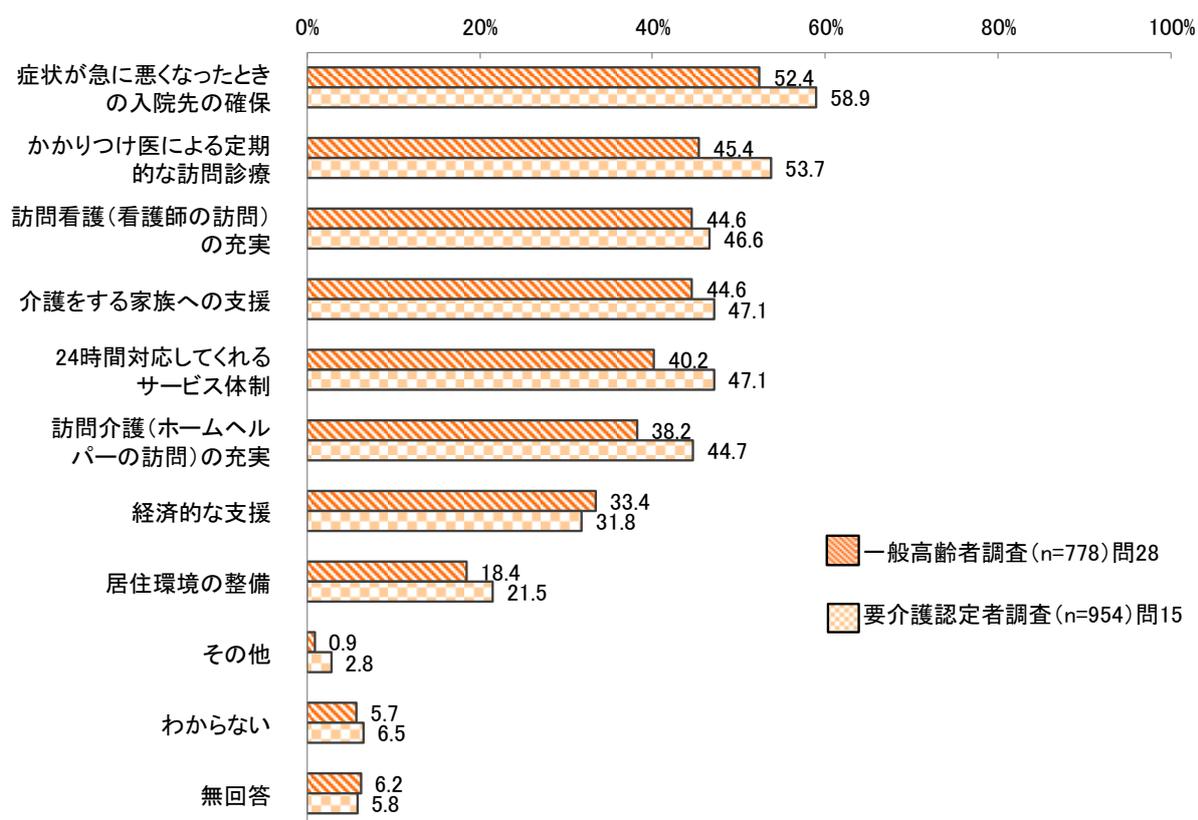
図表 9.8 在宅医療を利用した在宅生活の継続ができないと思う理由



【一般高齢者調査：問28、要介護認定者調査：問15】
 あなたは自宅で最期まで生活するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

自宅で最期まで生活するために必要なことでは、一般高齢者、要介護認定者ともに、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が最も多く、次いで、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」となっており、医療に関するニーズがより上位にあげられていることがわかります。

図表 9.9 自宅で最期まで生活するために必要なこと



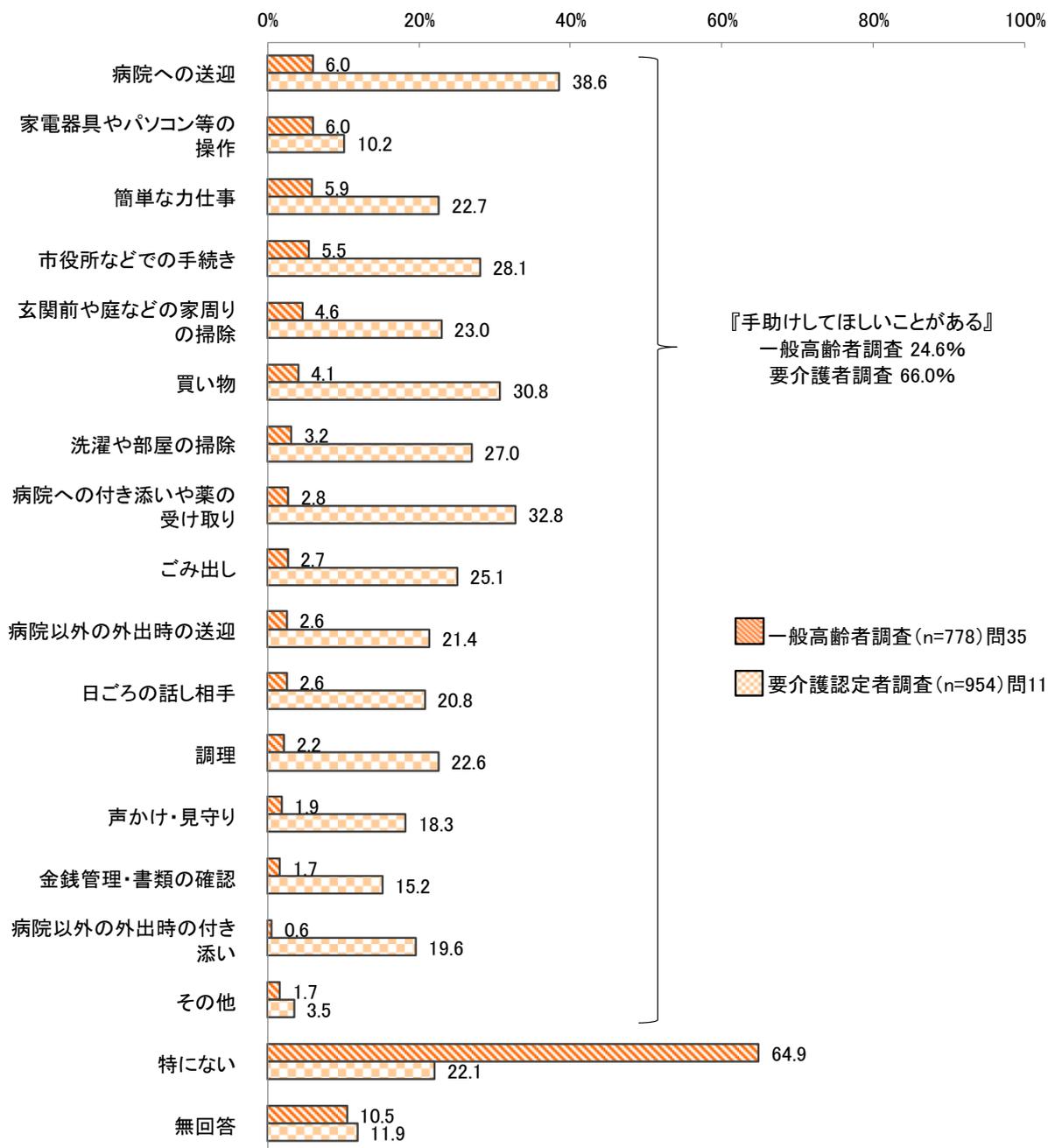
3 生活支援について

【一般高齢者調査：問35、要介護認定者調査：問11】
あなたが普段の生活の中で、手助けしてほしいことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

普段の生活の中で、手助けしてほしいことは、一般高齢者では、24.6%が手助けしてほしいことがあるとしており、「病院への送迎」、「家電器具やパソコン等の操作」、「簡単な力仕事」など多岐にわたります。

要介護認定者では、66.0%が手助けしてほしいことがあるとしており、一般高齢者と同様、「病院への送迎」が最も多く、次いで「病院への付き添いや薬の受け取り」、「買い物」があげられています。また要介護認定者の場合、多数の項目で手助けしてほしいとする割合が多く、介護・医療を含め、生活全般にわたる手助けが必要となっており、介護サービスの充実とともに医療も含めた生活全般にわたる支援のしくみを構築する必要があります。

図表 9.10 普段の生活の中で、手助けしてほしいこと



4 介護について

【一般高齢者調査：問43】

あなたは将来、介護が必要になったときには、どこで介護を受けたいですか。(ひとつだけ○)

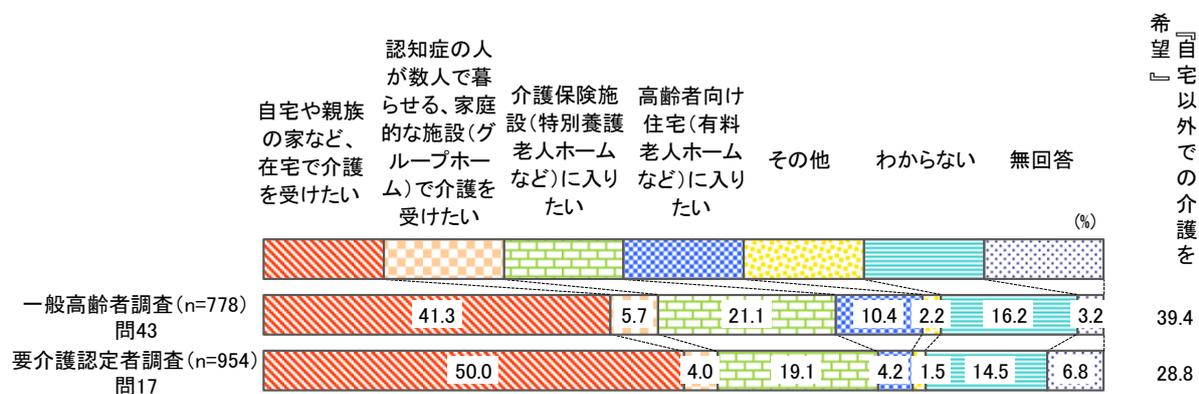
【要介護認定者調査：問17】

宛名の御本人様は今後、どこで介護を受けたいですか。(ひとつだけ○)

介護が必要になったときに、介護を受けたい場所については、一般高齢者、要介護認定者ともに、「自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい」が最も多く（一般高齢者 41.3%、要介護認定者 50.0%）、在宅介護の意向が多くみられます。

一方、特別養護老人ホームや有料老人ホームなど、『自宅以外での介護を希望』する割合は、一般高齢者では 39.4%、要介護認定者では 28.8%となっています。

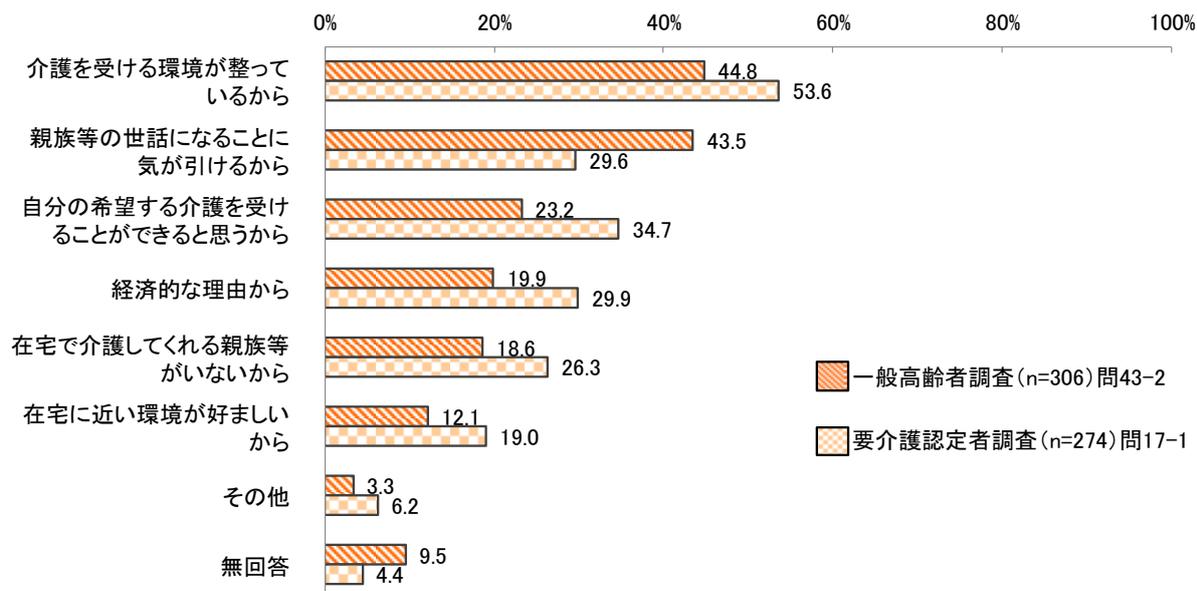
図表 9.11 介護が必要になったときに、介護を受けたい場所



【一般高齢者調査：問 43-2、要介護認定者調査：問 17-1】
 その場所（自宅以外）を選んだ理由について、お答えください。（あてはまるものすべてに○）

「自宅以外」の施設等を選んだ回答者（一般高齢者の 39.4%、要介護認定者の 28.8%）において、「自宅以外」の施設等を選んだ理由については、一般高齢者、要介護認定者ともに、「介護を受ける環境が整っているから」が最も多くなっており、要介護認定者は半数を超えています。要介護者とその介護者ともに施設の介護環境への関心がより高いものと思われる。

図表 9.12 自宅以外での介護を選んだ理由



【一般高齢者調査：問44】

在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。

(主なもの3つまでに○)

【要介護認定者調査：問18】

在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。

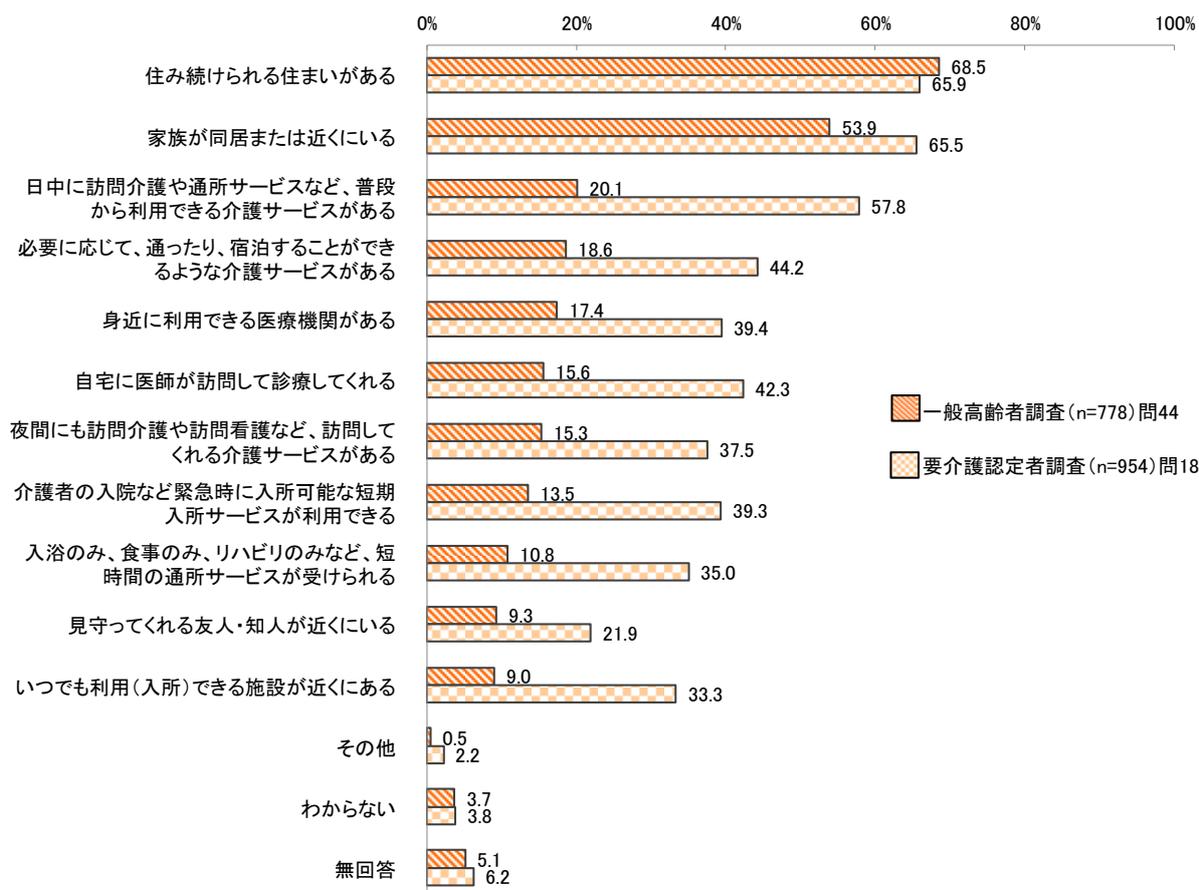
(あてはまるものすべてに○)

在宅で暮らし続けるために必要な条件として、一般高齢者、要介護認定者ともに「住み続けられる住まいがある」ことが最も多く、次いで「家族が同居または近くにいる」ことがあげられており、要介護認定者では、「家族が同居または近くにいる」が65.5%と、「住み続けられる住まいがある」の65.9%とほぼ同じ割合です。

要介護認定者にとっては、介護する家族が近くにいるかどうかは切実な課題であることから、本人が住み慣れた環境で生活を継続するうえで重視していることがうかがわれます。また、要介護認定者では、普段から在宅介護（訪問、通所）サービスが利用できることも重視していることがわかります。

このように、「家族の存在」と「介護サービス」の身近さが在宅生活で必須となっていることがわかります。

図表 9.13 在宅生活で暮らし続けるために必要な条件



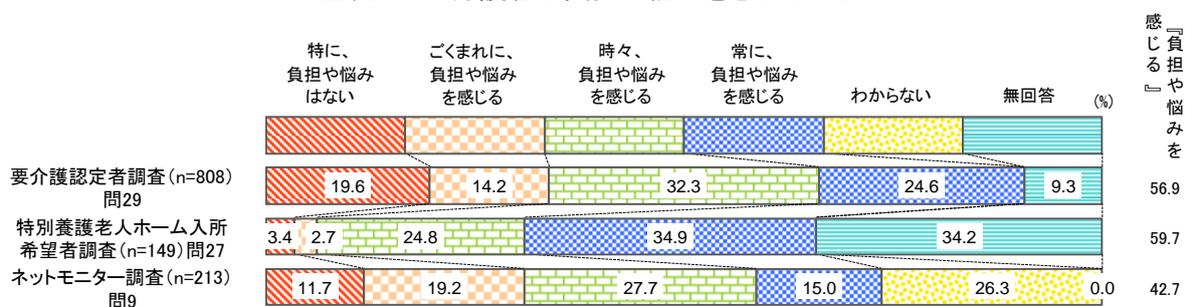
【要介護認定者調査：問29、特別養護老人ホーム入所希望者調査：問27】
 中心となって介護をしている方は、介護の負担や悩みを感じることがありますか。
 (ひとつだけ○)
 【ネットモニター調査：問9】
 あなたは現在または将来、家族等の介護をすることについて、負担や悩みを感じますか。
 (回答は1つ)

介護者の負担や悩みについて、「時々、負担や悩みを感じる」、「常に、負担や悩みを感じる」を合わせた『負担や悩みを感じる』は、要介護認定者、特別養護老人ホーム入所希望者の主介護者ともに約6割と半数を超えています。

一方、中高年世代にとって現在や将来の家族等介護への『負担や悩みを感じる』は4割にとどまっています。

中高年世代が早期から介護負担に備え、様々な悩みの軽減が図られるよう、介護体験者の情報や、介護のコツなどを共有できるしくみが必要です。

図表 9.14 介護者は負担や悩みを感じているか



※「わからない」は、一般高齢者調査、要介護認定者調査では、調査なしのため 0.0 非表示

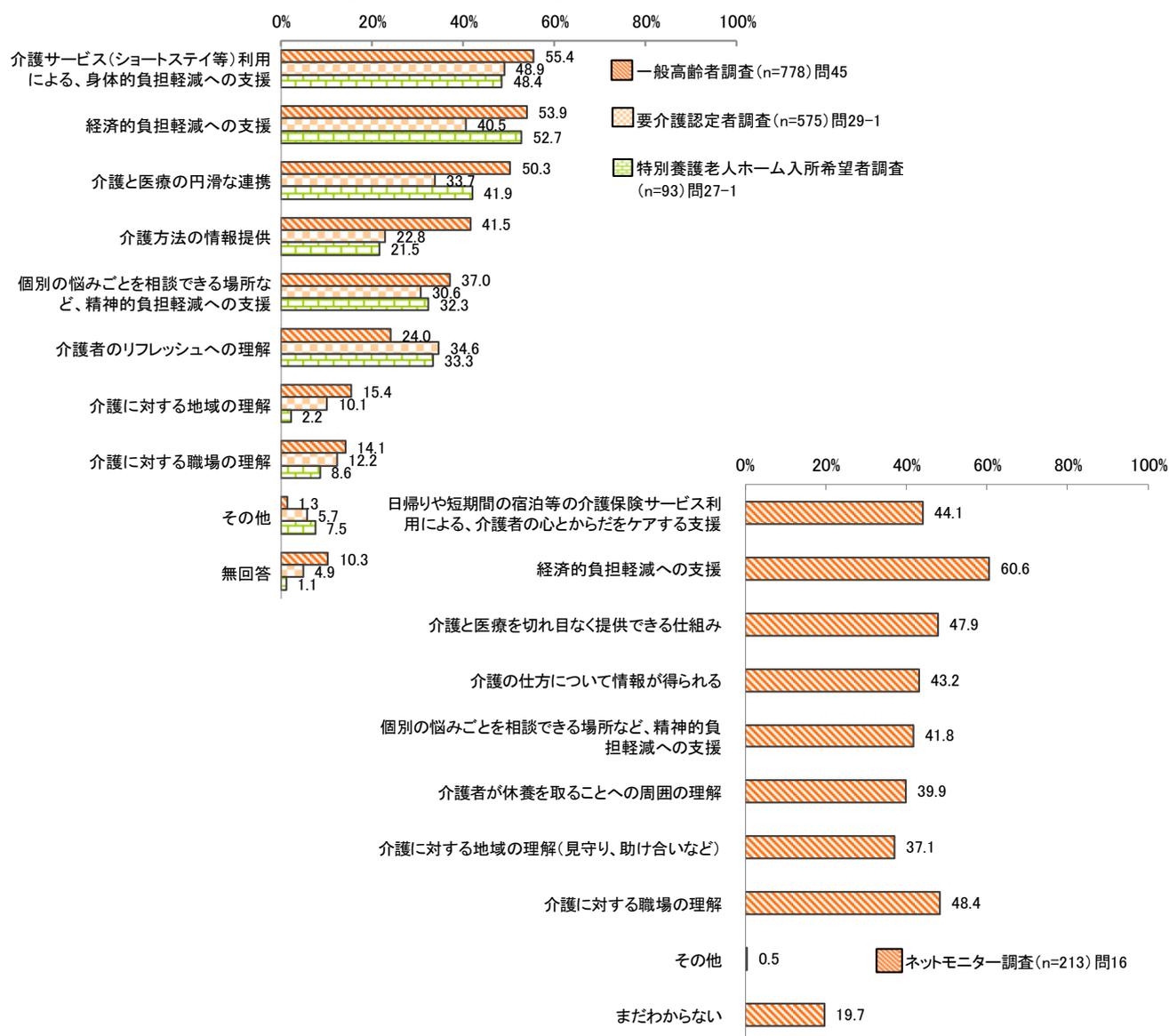
【一般高齢者調査：問45】（回答者は本人）
 在宅で介護をする家族には、どのような理解や支援が必要だと思いますか。これまで介護の経験がない方は、想像で構いません。（あてはまるものすべてに○）

【要介護認定者調査：問29-1、特別養護老人ホーム入所希望者調査：問27-1】
 （回答者は中心的な介護者）
 負担や悩みを和らげるにはどのような理解や支援が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

【ネットモニター調査：問16】（回答者は本人）
 あなたは、家族等の介護をするようになった場合、介護者の負担や悩みを和らげるにはどのような理解や支援が必要だと思いますか。（回答はいくつでも）

人生100年時代を迎えるにあたって、今後、市が重点的に取り組むべきことで最も多かった「家族介護への支援」について、介護者の負担や悩みを和らげるために必要な理解や支援は、一般高齢者（回答者本人）、要介護認定者（回答者は中心介護者）では、「介護サービス（ショートステイ等）利用による、身体的負担軽減への支援」が最も多かった一方、特別養護老人ホーム入所希望者（回答者は中心介護者）、中高年世代では、「経済的負担軽減への支援」が最も多く、介護サービス充実とともに、介護を支える家族を含めた生計面への支援が重要であることがうかがわれます。

図表 9.15 介護者の負担や悩みを和らげるために必要な理解や支援

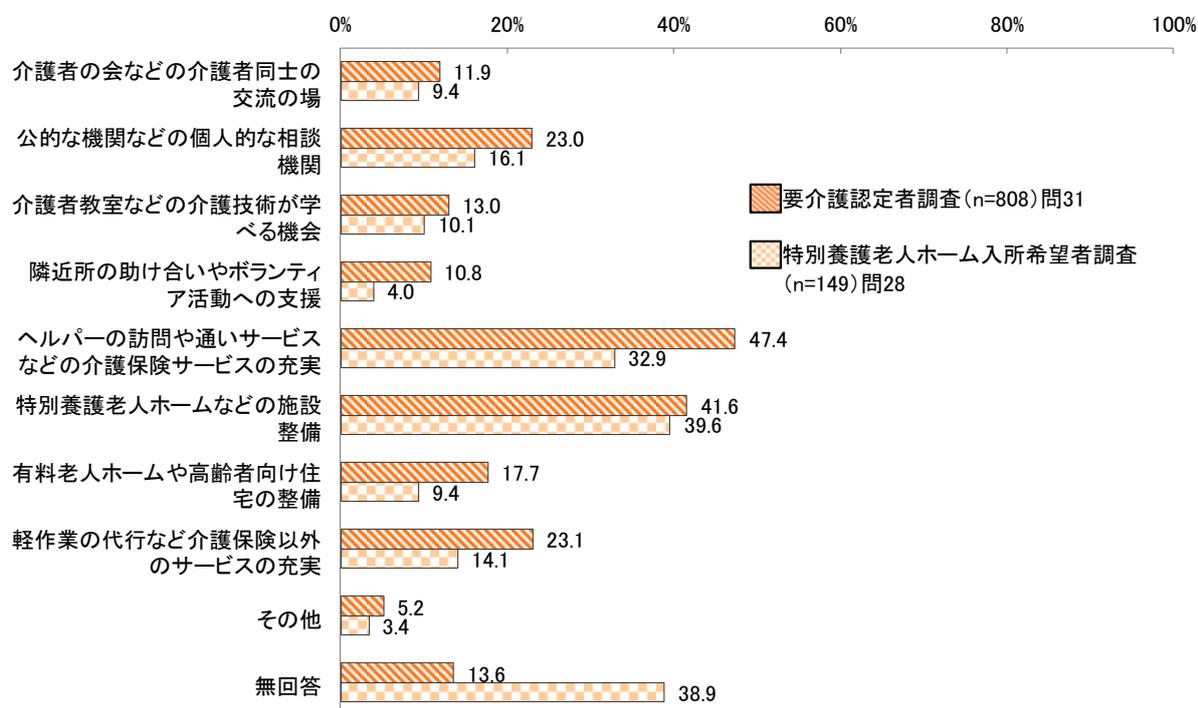


【要介護認定者調査：問31】
 中心となって介護をしている方が充実を望むことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）
 【特別養護老人ホーム入所希望者調査：問28】
 中心となって介護をしている方が、介護者支援として充実を望むことは何ですか。（○は3つまで）

中心的に介護を担う方からみた支援ニーズは、「ヘルパーの訪問や通いサービスなどの介護保険サービスの充実」、「特別養護老人ホームなどの施設整備」が、要介護認定者、特別養護老人ホーム入所希望者ともに多くなっています。

在宅、施設各サービスの充実が介護者支援の観点からも求められているといえます。

図表 9.16 中心介護者が充実を望むこと

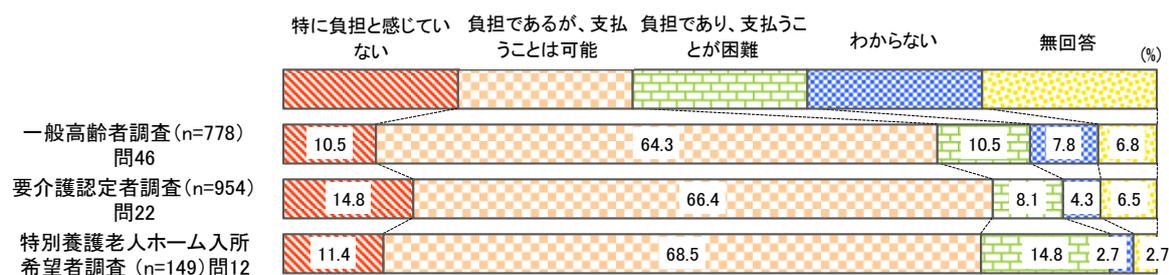


【一般高齢者調査：問46、要介護認定者調査：問22、特別養護老人ホーム入所希望者調査：問12】
介護保険料についてどのように感じていますか。(ひとつだけ○)

現在の介護保険料については、一般高齢者、要介護認定者、特別養護老人ホーム入所希望者と
もに、「負担であるが、支払うことは可能」が最も多くなっています。

一方、「負担であり、支払うことが困難」とする割合が一般高齢者、特別養護老人ホーム入所希
望者で1割を超えており、負担軽減を図ることが必要と思われれます。

図表 9.17 介護保険料の負担感



【一般高齢者調査：問47、要介護認定者調査：問23、特別養護老人ホーム入所希望者調査：問13】
 介護保険料やサービス利用料の負担が大きくなる中で、今後さらに充実させた方がよいと思う介護保険のサービスは次のうちどれですか。(〇はひとつ)

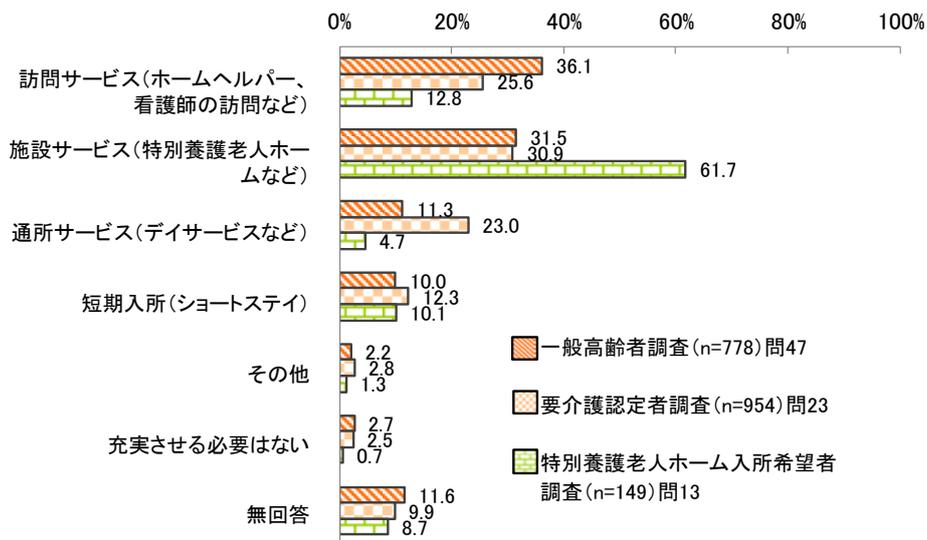
【ネットモニター調査：問11】
 社会保障費が増大する中、今後さらに充実させた方がよいと思う介護保険のサービスは次のうちどれですか。(回答はいくつでも)

今後さらに充実させた方がよいと思う介護保険サービスについては、一般高齢者では、「訪問サービス（ホームヘルパー、看護師の訪問など）」が最も多く、要介護認定者、特別養護老人ホーム入所希望者ではともに、「施設サービス（特別養護老人ホームなど）」が最も多くなっています。

中高年世代では、「ホームヘルパー等に家に来てもらい、食事・入浴等の介護を受けるサービス」が最も多く、「老人ホームに入所して、食事・入浴等の介護を受けるサービス」が次いで多くなっています。

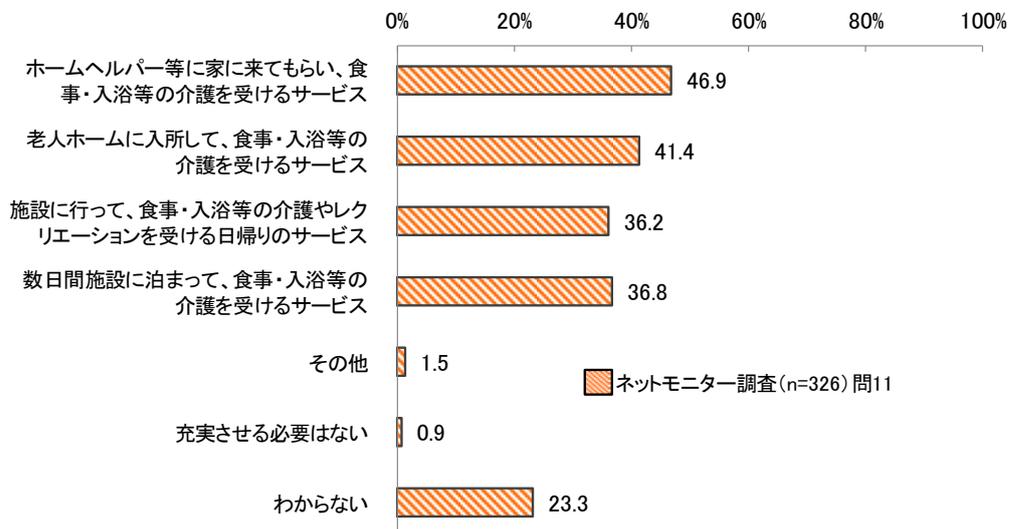
今後は、施設サービスの有する機能を活用して、地域全体の介護力を高めるなど、サービス供給方法の工夫と充実を図ることが必要です。

図表 9.18 今後さらに充実させた方がよいと思う介護保険サービス



※一般高齢者調査、要介護認定者調査は、複数記入者が多かったため、合計は100%を超えている

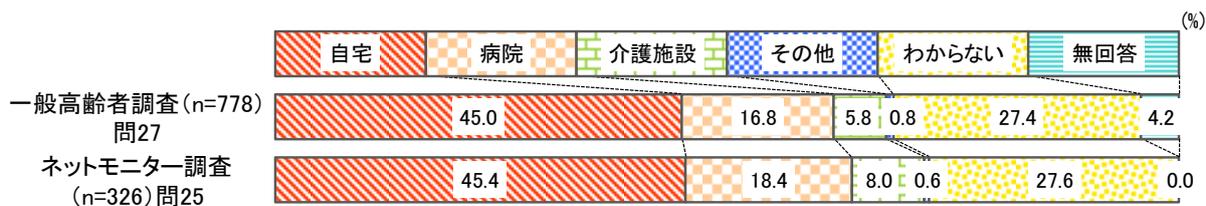
※特別養護老人ホーム入所希望者調査は、単一回答で聴取



【一般高齢者調査：問 27、ネットモニター調査：問 25】
 あなたは人生の最期を迎える場所として、どこを希望していますか。(ひとつだけ○)

人生の最期を迎える場所の希望としては、一般高齢者、中高年世代ともに、「自宅」、「病院」の順に多く、一般高齢者、中高年世代ともにほぼ同じ割合であることから、要介護状態や入院の必要な状態となる以前から、自宅で生活し続けることを視点にバリアフリーなど生活しやすい環境づくりが重要です。

図表 9.19 人生の最期を迎える場所の希望



(平塚市高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）の役割)

認知症相談窓口としての役割の認知状況

【一般高齢者調査：問18】

あなたは、高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）が、認知症に関する相談の窓口になっていることを知っていますか。（ひとつだけ○）

【ネットモニター調査：問20（4）】

あなたは、平塚市高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）についてどのようなことをご存知ですか。4）認知症に関する相談の窓口になっていること

高齢者虐待に関する相談や通報の窓口としての役割の認知状況

【一般高齢者調査：問19】

あなたは、高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）または市役所の高齢福祉課が、高齢者虐待に関する相談や通報の窓口になっていることを知っていますか。（ひとつだけ○）

【ネットモニター調査：問20（5）】

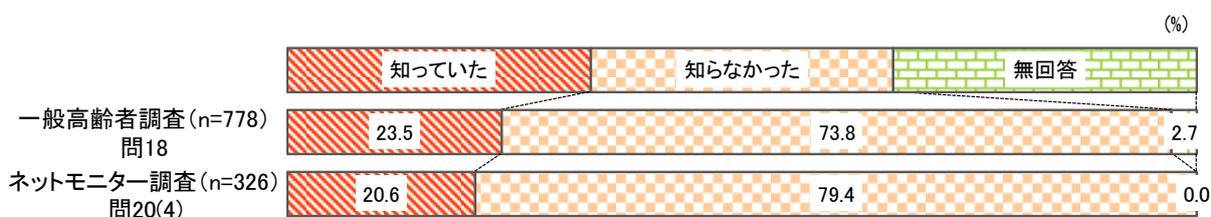
あなたは、平塚市高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）についてどのようなことをご存知ですか。5）高齢者虐待に関する相談や通報の窓口になっていること

平塚市高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）の役割については、「認知症相談窓口」、「高齢者虐待に関する相談や通報の窓口」とともに、一般高齢者、中高年世代とも認知度は約2割となっています。

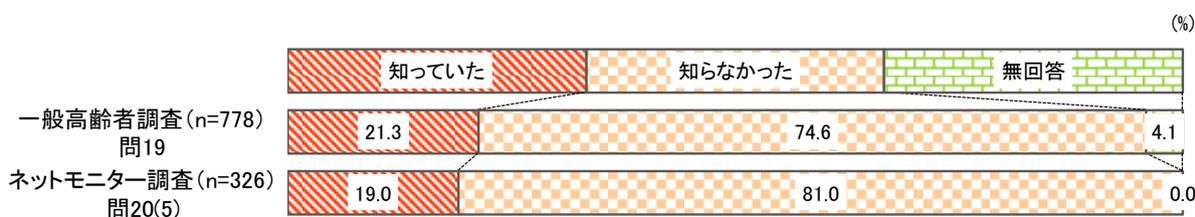
今後、高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）は、地域において多様な役割を積極的にPRし、中高年世代に向けても有用な情報を発信することで、地域における幅広いケアの土壌づくりを進める必要があります。

図表 9.20 平塚市高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）の役割の認知状況

(認知症相談窓口としての認知状況)



(高齢者虐待に関する相談窓口としての認知状況)



5 介護保険制度・高齢者福祉施策について

【一般高齢者調査：問48、要介護認定者調査：問26】
 あなたは介護保険制度・高齢者福祉施策について、どのように感じますか。
 (もっとも近い考えをひとつだけ○)

介護保険制度・高齢者福祉施策の充実度については、「とても充実している」「まあ充実している」を合わせた『充実している』は、一般高齢者では24.6%、要介護認定者では50.1%と、要介護認定者では半数が充実していると評価しています。

今後は、在宅生活の充実の視点から、高齢者福祉施策のさらなる充実を図るうえで、人生100年時代の市の取り組むべき施策として「家族介護支援」、「移動支援」、「在宅医療」を計画的に推進することが必要と思われます。

図表 9.21 介護保険制度・高齢者福祉施策の充実度

